

令和2年度第3回伊予市総合計画策定審議会会議録

日 時：令和3年1月12日（火）10時00分～11時15分

場 所：伊予市庁舎3階庁議室

出席者：前田眞会長、河合浩二副会長、高岡公三委員、西田和眞委員、村上縁生委員、出来和人委員、亀岡功生委員、土井一成委員、大西聡委員、沖田誠二委員

欠席者：東瀨則之委員、田中美和委員、岡田智恵委員

事務局：未来づくり戦略室（皆川・岡井・曾我部）

1 開 会

委員3人の欠席報告を行い、会議の成立を確認した。

2 議 事

(1) 第2回会議録の確認について

(事務局)

後の議事に関わる内容を整理しつつ説明する。

まず第1回会議録の確認を行い、その後総合計画策定に向けた進捗状況の説明を行った。委員から頂いた意見として、4～5ページにかけ、SDGsに関する提案を頂いており、「横串がさせる形で示したものをどこかに付けてもらいたい」との意見があった。また会長の意見として、6ページの「Goal17 パートナiershipで目標を達成しよう」は全ての施策に関わるゴールではないかという意見もあった。次に6ページ中ほどから、第2次伊予市総合計画後期基本計画（案）を提示した。事務局から提案した、基本目標3「生涯教育都市の創造」から「生涯学習都市の創造」への変更を了承いただいた。9ページの委員の意見、第2次総合計画で最重要課題としていた「人口減少対策」、それから未来戦略1にある「3万人が住み続けられる環境をつくります」の内容の見直しの提案を頂いている。もう少しポジティブ、アクティブにという点で、10ページにかけ、ほ

かの委員からも提案いただいている。11ページから未来戦略の具体的なプロジェクトの一つ「あじなまち応援プロジェクト」に関する意見があり、ほかの委員から「キャラクターづくりや地域のブランド品認定など、もう定着しているのではないか」という意見が出た。この辺りが前回の審議会での意見であったと思う。

審議会は、その後スケジュール及び審議日程の確認を行い、会を閉じている。

(2) 第2次伊予市総合計画後期基本計画（案）について

(事務局)

事前配布している第2次伊予市総合計画後期基本計画（素案）を用意いただきたい。分量が多くA4の1枚に2ページずつ縮小した形としている。表紙を除いて、見開きで見えるイメージと考えていただきたい。前回提示した素案から変わった部分を中心に説明を進める。事前にお断りしなければならない点として、基本計画部分の各論でページの右側に当たる部分、関連プロジェクトや取組の方針、主要事業、重要業績評価指標など、未記入の部分がある。事務局が関係部署に調査を依頼する際に手違いがあり、報告・取りまとめが遅れている。この後説明する市民意見公募の実施には間に合わせる調整をしているものの、本審議会においては、内容が整ったもののみ本日の配布資料としている。

まず表紙の右側にある目次として、序論、基本構想、基本計画とある。前回「SDGsへの取組」は序論の第2章の3で紹介していたが、構成上、基本構想の第2章の2に変更している。基本構想にあるまちの紹介や人口ビジョンなど、一部字句の修正は加えているものの、前回とほぼ同様の内容となっている。

15ページ、基本構想の部分において、表現を「人口減少社会への対応」とし、「危機感を持ちつつも、いきいきと暮らせるようにするため」と表現をポジティブに変更している。16ページの<関係図>の最重要課題について、前回「人口減少抑制対策」としていたが、ネガティブな表現を与えるという意見があり、「人口減少社会への対応」と変更している。今回基本構想の見直しではないので、抜本的な課題設定の変更はしていないが、表現を若干修正したと理解いただきたい。17ページの未来戦略1「3万人が住み続けられる環境をつくります」を「3

万人が住み続けたいなる環境をつくりま

す」と表現の変更をしている。

18ページから未来戦略の具体的なプロジェクトを掲載している。プロジェクトの内容は前回と見比べると大きく表現が変わっている。17ページに「本市では、これまで市民満足度調査や市民討議会の実施などにより、様々な市民の意見を頂いています。これらの意見を整理し、…」という言葉を追加している。前回総合計画を策定する際に、この市民討議会を実施し、またワークショップを開いて、当時の未来戦略プロジェクトを策定した。ただ総合計画を策定した後も市民討議会は継続して開催し意見を頂いている。また、別に2回行った市民満足度調査についても市民から自由意見を頂いている。これら計300件の意見を、庁内グループであるSDGs推進プロジェクトのメンバーにより整理してもらった。プロジェクトの軸（方向性）としては、まち、しごと、ひとと、いわゆる地方創生の構成になっていることから、国が示す第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の目標を参考に今回の未来戦略のプロジェクトの軸を作った。未来戦略1であれば、18ページの表にあるとおり、快適環境改善プロジェクト、地域資源掘り起こしプロジェクトと、それぞれの未来戦略に3つずつプロジェクトを配している。19ページから具体的なプロジェクト内容を記載している。前回のプロジェクトでは、＜視点と方向性＞としていたものを、明確に＜市民から見た本市の課題＞と変更し、市民が感じている課題をなるべく原本のまま列記する形に変更している。その後の取組や役割分担については、プロジェクト内容に合わせ組み換え、あるいは追記した形となっている。

29ページから第2章として、施策の大綱、またまちづくりの基本目標として5つの基本目標を掲げている。この部分については特に変更はない。34ページから、先ほど申し上げたSDGsへの取組を持ってきている。横串を入れる関係上、施策とのつながりが出る部分でないと収まりが悪いので移動した。36～39ページに一覧を表示している。他市町の総合計画でも最近SDGsが取り入れられているものの、大抵は縦軸に施策、横軸にSDGsを配置する例がほとんどであるが、今回SDGsを強調する意味で、縦軸にSDGs、横軸に施策と入れ替えた表示をしている。40ページ、体系図として、最重要の課題、未来戦略、それに続くプロジェクト名の変更を行

っている。

42ページから基本計画となる。基本計画の見方として、施策の目標、現状と課題、関連深いSDGs、市民満足度調査結果、そして施策に関連する写真又はイラストを配置している。このうち市民満足度調査結果というのは、これまで2回実施している。グラフは横軸を重要度、縦軸を満足度としている。それぞれの軸は、平成30年度第1回の市民満足度調査における中央値（24施策のうち、重要度・満足度の高い項目から並べた真ん中の数値）を軸としている。2回の結果がどう変わったか矢印で示している。概ね令和2年度の調査結果は、満足度が高めに出ている結果となっている。

44ページから24の施策についてそれぞれ表記している。これまで提出があった項目については、本日配布している資料をご覧いただきたい。以上で説明を終わる。

(会長)

総合計画後期基本計画の素案について、前回皆さんから頂いた意見を取り込んで修正した内容について説明があった。多岐にわたるので1個ずつ確認いただければと思う。

まず資料16ページ、将来像として「まち・ひと ともに育ち輝く伊予市」とあり、その関係図の中の表記として、「人口減少社会への対応」という表記に変えている。前回人口減少社会というマイナスのイメージをポジティブなとらえ方に変えてはどうかという意見があり、「人口減少社会への対応」という形に変えている。人口減少社会を抑制するという目標もあるにはあるが、現実的には難しい状況である。実感に合った言い方にするなら、減っても大丈夫な社会を念頭に入れながら考えることが必要である。そういう意味で「人口減少社会への対応」という表記に変えている。特に問題がなければこの形で進めたいがいかがか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(会長)

はい、ありがとうございます。ではそういう形で進めていければと思う。それに基づいて未来戦略、実際にプロジェクトとしてやっていこうという未来戦略が

1、2、3と整理されている。その1「3万人が住み続けたい環境をつくり
ます」とある。「住み続けられる」よりは、意思を持って、住み続けたいまちにし
ていくという表記に変えている。これは行政のみならず市民の方々、市民の意識
も喚起して進めていけばいいという表記になっている。前回は話したのだが、
これからの社会を考えたときに、成り行きの社会という、放っておいたらこうな
る社会から、なりたい社会、なりたい未来という言い方が良いかもしれないと。
成り行きの未来からなりたい未来というイメージを考えたときに、そういう意味
で「住み続けたい環境をつくりたい」と表記を変えていく感じであるが、問
題がなければこの表記で行きたいと思う。いかがだろうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(会長)

ではそのようにする。次に未来戦略プロジェクトにつながるための本市の課題
の整理の仕方である。今回市民の生の声を入れている。通常は内容をまとめて、
こういう課題があると、市民の課題を行政課題に切り替えて、行政としてこうい
う課題解決に取り組むというケースが多いのだが、今回の伊予市総合計画後期基
本計画では、市民から見た本市の課題という形としており、市民からこんな意見
が出ている。それを解決するため未来戦略プロジェクトを考えていくというスト
ーリーになっていると思う。生の意見なので、ばらばらと出てきている部分もあ
るが、その辺りの表記のことについて、気になるころがあれば、ということだ
があるが、いかがだろうか。それぞれの取組内容について、プロジェクトごとに市
民の目から見た課題が項目ごとに整理されており、自分ごととして考えてもらえ
るきっかけになりやすいという気はする。よろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(会長)

ではこの形の表記で進めていきたい。次に34ページ、SDGsへの取組という形で
掲載している。施策の中でSDGsがこう関わっているというまとめ方、1個ずつが
独立している形ではなく、全体に横串を指す表記があればいいということもあ
り、具体的には36ページ以降に、縦軸でSDGsのゴールがある。このゴールを目指

して、右側にある基本構想、基本施策を実施していくという流れに、まとめ方がらっと変えている。今までの総合計画では施策中心で考えていくのが多いのだが、伊予市はSDGsを前面に出して取り組んでいく、未来の都市をつくっていくという考えが現れた内容になっていると思う。34ページのところで、SDGsのゴールに近づくために、施策を重ねていく、施策ごとの相乗効果を選びながらやっていくという形の表記に変えていると思う。

施策中心に考えた方がいいのか、ゴールを中心に施策を組み合わせていく発想で考えていくのか、ということになると思う。積極的なSDGsの考え方に基づいて、伊予市の未来をつくっていくという表記になっていると思う。この形で進めてよろしいか。

(委員)

一つのゴールを目指すには、いくつもの施策を組み合わせてやっていく必要があるということで、私はこの書き方が分かりやすいと思う。

(委員)

私も同意見である。組織は大きくなってくると、どうしても縦割りになって、横が何をしているか分かりにくくなる。銀行もそういうところがあり、よその部署が何をやっているのか分からない。それが、最近SDGsが話題になっており、ここの部署もこのゴールに向かって動いている、ウチもこれやっている、それなら一緒にやろうか、そういう動きが出始めているので、こういう形が良いと思う。

(会長)

ありがとうございます。ほかの皆さんいかがだろうか。こういう形の表記に変え、目指すべきゴールを実現することで、将来やはり住みやすい、豊かな社会に代わっていくというイメージが表現できていると思う。

後でまた皆さんの発言の時間を取りたいと思う。一応こういう形でのまとめ方で進めていけたらいいかなと思う。

基本計画の部分は、まだ不十分なところもあるのだが、計画書の構成としては、例えば1-①住みやすい都市空間づくりという施策であれば、こういう事業が絡んでいる。あるいはSDGsのこういう考え方がベースにあるという表記の仕方をして

いる。また、市民満足度調査の結果からも、どういうふうに経年変化で動いてきたか視覚でも見える形になっている。平成30年度と令和2年度の市民意識の変化も見えてくるので、そういう点でも分かりやすい表記になっている気がする。埋まっていなくても、こういう形で埋まっていくというイメージで見てください、皆さんの意見を頂ければと思う。

(事務局)

よろしいか。基本計画が出そろっておらず、大変申し訳ない。本日配布したものが1-①から10施策、完全な内容ではないけれど、提出があったものをまとめている。こちらを見ていただくと、施策の目標、現状と課題、SDGs、市民満足度調査結果の辺りは一緒である。表の右側に関連するプロジェクト、取組の方針、主要な事業と重要業績評価指標を載せている。前回もお伝えしたとおり、特徴的な取組としてQRコードを配置している。もう一点、重要業績評価指標の部分について、例えば45ページの指標であれば、「市街化区域内の人口」として、これまでなら現状把握値が15,329人、目標値が15,329人。増えるのが良いのか、減るのが良いのか、どういった内容が良いのか、なかなか分かりにくかったので、なるべく動詞を加えた形とした。「市街化区域内の人口を維持します」と。つまりは減少していく方向にはあるのだが、なるべく維持をしたいと。そのほかの指標も増やします、整備します、実施しますという具体的な指標とし、どういう動きをしていけばいいのかという形の表記としている。

(会長)

本日別添で配布した内容を見ていただくと分かるかなと思う。関連プロジェクトについても、目標を実現するためにいくつかの施策を重ねていくという形もある。業績評価指標としてKPIとよく言われるのだが、数値目標を分かりやすく設定して、これらが5年経った後、どれだけ進捗できているかという、評価しやすい視点も少し入れながらまとめていると思う。また、「詳しくはこちら⇒」としてQRコード、最近の時代なのでQRコードを見てホームページ等に繋がって確認できる形もできている。いかがだろうか。

(委員)

よろしいか。42ページ以降の左半分のページに関連が深いSDGsということで3項目挙げられている。その左に優先度という矢印が入っているのだが、内容として上から順番に優先度が高いという理解をするのであれば、この順番が付いた背景を教えていただければと思う。いずれも重要な項目であり、なぜあえて順番が付いたのか。市民の声なのか、その辺りご説明いただいたらと思う。

(事務局)

ありがとうございます。こちらについて、庁内で組織しているSDGs推進プロジェクトという、若手職員で構成したプロジェクトチームがあり、そちらで、まずそれぞれの施策の内容とSDGs、17の目標と169のターゲットの両方を見比べて関連付けを行っている。その結果は、先ほどの36～39ページの縦軸SDGs、横軸施策という関連のところにもつながってくる。関連付けをした後に、その中で3つ具体的に挙げるとするならばということで、職員目線で選択したということである。それが原案となり、今度は施策そのものを担当する所属課に内容を確認してもらったということである。例えば56ページにある1-⑦循環型社会構築に向けた環境づくり、主にごみの関係であるが、ここでは関連深いSDGsが3つではなく、一番重要なところで11、12、17が該当する、次に4、13、14が同率ではないかと、あくまでも所属課の判断ではあるが、こういう形での見直しをしたものを、いわば市としての考え方として優先度を挙げさせていただいている。

(会長)

よろしいか、全体の流れとして合っているかどうか、後で事務局に補足してもらいたいのだが、先ほど市民から見た課題というののがかなり出てきた。さっきの資料で言うと、19ページ以降の未来戦略プロジェクトに関するところである。それらの課題を解決する視点で見たときに、SDGsのゴールに紐づけをする。若手の職員の皆さんで紐づけをされて、それを解決するための施策にはどういう施策があるのかという、その施策の構成を、事業に直接関わる担当課が分類しながら、ここに記載していただいたという話になるのかなと思う。その辺の流れが分かりにくい部分があるので、参考で良いので、どこかに説明できるようなことがある

とイメージが見えるかなと思った。その辺事務局いかがだろうか。

(事務局)

今会長がおっしゃったとおり、計画の中に入れるのか、参考資料として入れるのかということはあるのだが、そういう経緯、施策が決まった経緯は改めて説明を入れた形で進めたいと思う。

(会長)

未来戦略プロジェクトのところで、市民の意見がばらばらと羅列して書いてあった意味というのは、ここに繋がってくるのだろうという感じがする。そういうストーリーを見せることにより、行政がやる計画だけではなく、市民の方々が参画して、その解決に関わっていくことを少し促しながら進めていくという、計画のまとめに繋がっていくのだと思う。その辺りのところを少し加味してもらえたらいいと思う。

もう一点、委員が言われたように、優先度とあるが、順番を決められるか決められないかということもある。私も最初これで良いかなと思っていたのだが、委員の意見を聞きながら思ったのは、例えば「主なゴール」という形で、順番を付けるのではなく、主なゴールはこれだという言い方もあるかなと思った。事務局でせっかく作業をしていただいているのだが、皆さんご意見いかがだろうか。順番を付けた形か、並列的に主なゴールという形で、個々に挙がっているゴールは並列ですという言い方がいいのか。いかがだろうか。

(委員)

よろしいか。36ページから一覧表にしているSDGsの各項目の関連が示されている。これがあることで大変見やすくなった。1-①から5-③までの横のつながりもよく分かる。この辺で、どういう施策をどこと協働してやればより効果があるか、ということにつながっていくと思う。ただ先ほどあった優先度については、例えば3-①の学校教育のところを見て見ると、○が6個付いている。その中の3つが個々の優先度として示されているのだが、本当にこの順番で良いのかと思う。6つの中で特に目標として出てきたものが、この一覧表の中で位置づけられると、横のつながりも優先度が非常に高いもの同士の繋がりということも出てくるの

で、非常に扱いがしやすいのではないかと感じた。以上である。

(会長)

ありがとうございます。その辺の優先度の取り扱いであるが、ほかの委員の意見はいかがだろうか。一つのストーリーが見える形の表記の仕方は大事かなと思う。実は後ろに市民意見公募というものが控えており、市民の人たちの意見を聞くということもあるので、最終的には市民の意見を聞きながら、という形になるのかなと思う。そこに提供する内容にも少し関わってくるので、改めて意見を頂ければと思うが、いかがだろうか。

よろしいか。私からの提案ばかりで恐縮であるが、優先度を矢印で書いているのだが、そこを取っ払って、主なゴールという表記をするということではいかがだろうか。若手の職員の方が一生懸命頑張って考えていただいたというのがあるのだが、客観的な言い方をすると、それだけでは根拠が弱いのかなという気もする。そういう意味では主なゴールという並列的な形でまとめる方が良いのかなという気がする。いかがだろうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(会長)

よろしいか。では、そういう形でまとめさせていただければと思う。総合計画の内容については、こういう形のまとめ方で意見公募にかけていくことになると思う。本日皆さんご了承いただいたという形で意見公募にかけていけばいいと思うのだが、今までの議論の中で、感想でも良いのだが、少し皆さんのご意見を聞かせていただければと思う。よろしく願います。

(委員)

全体を通して、今までの総合計画よりもかなり見やすく分かりやすいというのが私の率直な意見である。SDGsも初めてではあるのだが、これもきれいにまとめられており、知らない人が見ても分かりやすいものになっていると思う。

(委員)

優先順位を取っ払うということに関して賛成である。色の形でこういうものが当てはまるということで、いろいろとまた話が進んでいくのかなと思っている。

すごく見やすくなっている。

(委員)

計画が洗練されてきて見やすくなっていると思う。まず体系図を説明いただいているので、縦の流れが分かる。そこに横串が入ったので、全ての施策の関連がよく分かると思う。

この基本計画ができて、私が少し危惧するのは、これがホームページに上がる。これだけのボリュームを誰が読むかというのが一つある。市民の意見を見てみると、若い人は広報を読まない、若い人はいろんな行事に参加しない、そういう意見があるので、立派なものができるでも実行できなければ絵に描いた餅になると思う。要はいかに広報していくかである。あと、QRコードがあるので非常に分かりやすいと思う。ある同窓会に関わっており、ホームページをリニューアルして動画を入れても反応がない。今は若い人が見てくれるかなと思い、頭にQRコードを入れている。それでもまだまだである。今はLINEの無料サービスで同窓会の情報を発信している。ただ、内容に間違いがあると、訂正1件ごとにかなりのお金がかかる。いろいろ方法はあると思うのだが、広報というか、市民の方を巻き込むようなことをやってもらいたい。市の内部では情報共有がおそらくできていると思う。また市議会に上げて最終的な計画になるなら、市議会もいけると思う。あとは市民をいかに巻き込むかだと思う。

(委員)

まずSDGsの考え方とか体系図を今のところに持ってきたのは、非常に正解である。見やすくなったし、伝えるときにも世界中がこっち向いている、それに沿って伊予市も向いているとよく分かる。横串を通したことによって、従来縦割りの組織の中で、同じようなことを形変えてやっていた、いわゆるダブりのものが解消されるのではないか。漏れとダブりの解消に非常にこの体系図は有効に機能する気がする。

基本的な形はこれで非常に良いと思うのだが、計画を進める中で、市民の声としていろんな想定外のことも一杯出てくると思う。いろんな提案が上がってくると思うのだが、その提案をいかにまたここに新たに取り入れて、どう対応してい

くかというのが、これからの市政に大事なことだと思う。

私が注目しているところで鯖江市がある。メガネで有名である。あそこは市民の提案は全部、できることとできないことと全部返事を返している。すると、そこに行けば何か面白いことができるかもしれないということで、移住者が増えている。それでまちが非常に活性化している。そういうことも取り入れながら、市民と距離の近い伊予市であってほしいと思う。

(委員)

SDGsのゴールの対応一覧表、横のつながりについて。ちょうど2年前に伊予市内で高齢のおばあちゃんが焼死するという火災があった。ちょうど今年度から高齢者の安全教室を実施しているのだが、これを実現するために社会福祉協議会、民生委員、高齢者支援員、警察機関等、一つ実施するために横のつながりは非常に大切になってくる。なので、この担当課分けのような形で連携して進めていくのは非常に良いかなと思う。また、現状と課題で具体的な数値で挙げているので、市民の方が見てもよく分かるかなと思う。

(委員)

SDGsは先ほども言ったように、小学校でももう学習の中に取り入れてやっているところである。このSDGsの重要性を私たちは本当にこれから真剣に考えていかななくてはならないことだと思っている。そういう意味で、ここで一覧にされたということは、これを見た市民一人ひとりもここはこういうつながりがあると理解していただけるだろうし、事業を進めていく上でも、例えば学校教育だから教育委員会がするのではなくて、例えば危機管理課やいろんなところが交わって一つのことを成し遂げていくという体制づくりにもつながっていくのではないかなと思う。素晴らしいものが出来上がったのではないかなと思う。

先ほど優先度の話もあったのだが、学校教育はSDGsで6つの項目に○が付いているのだが、全てが大事という気持ちがある。ただ全てを網羅していくことは非常に難しいから、その中で主なゴールとしてやっていくという形を取っていただくことが、非常にこれから進みやすいと思う。優先度となると、どうしても一番上をまずしないといけない。次に2番でいいやという活動になってしまいがちな

ので、3つくらいに絞っていただいたのは非常にありがたいと思う。

(委員)

私も今回新しい案を見せていただいて、市の目指す方向とSDGsの関連性が非常によく分かりやすい表になり、市民にもご理解いただけるのではないかと思います。

各論になるかもしれないのだが、資料の80ページ、4-③活力ある商業・工業の振興の中にSDGsが3つある。その中で強調されているのが新規創業者の増加、2番目も新規創業者が…と新規創業者が主語になっている内容が多い。前回も発言したかもしれないが、我々の会頭はやはり事業を続けることの難しさを痛感しており、いかに事業承継を図っていくか、そういうことが今後具体的な関連プロジェクトに上がってくるかもしれないが、そういう視点も入れていただくとありがたい。もう1点、SDGsゴールの8「働きがいも経済成長も」の説明の中で、我々も経営者側、使用者側の立場に立つわけであるが、この説明には、労働者の待遇を改善することも可能な立場にあるという表記がある。我々が今後取り組もうとしているのは、いわゆる健康経営の推進である。社員一人ひとりが健康でなければ会社自体が存続しない。そのためには組織の大きな意識改革も必要である。そういう事業者にも啓発できるようなファクターも入ってくるとありがたいと感じた。

(委員)

よく整理して計画されていると思う。それぞれ横のつながりができ、皆さんの、また市民の意見を取り入れながら実行していければ素晴らしい伊予市になるのではないかと思います。我々と農業の関連においては非常に厳しい環境であり、後継者の問題等もあるのだが、市、それから行政機関とも連携しながら、若手の力をできるだけ取り入れていけるよう努力をしていきたい。また、耕作放棄地が年々増えているという状況の中、良い農地については、できるだけ流動化を進めていきたいと思っている。今後ともご協力よろしくお願いしたい。

(委員)

<市民から見た本市の課題>のところは、行政側にとっては大変厳しい意見もある。こういう課題を抽出した上で、行政であったり市民であったり事業者であ

ったりがそれぞれ行動する、役割分担があると示されたことで、この計画の中に起承転結が含まれたかなと考えている。また資料18ページの未来戦略プロジェクトについても、前回からの修正でどこを目指すのかというのが、非常に分かりやすくなったように感じた。

(会長)

ありがとうございました。時間的なこともあるので、意見公募を踏まえた上で、皆さんの意見を取り入れながらまとめていく形になるのかなと思う。今の意見の中で、市民の人たちにどう伝えていくのか、読んでもらえるのかとか、関心を持ってもらえるのかとか、実効性に大きく関わるかなと思う。全部を読まないと分からないではなく、概要版のようなものがある、そこから深く関心のあるところに入っていきけるような、これはホームページの仕組みになるかもしれないが、そういうものができたらいいかなと思う。基本目標5（86ページから）協働参画推進都市の創造もあるので、協働参画のあり方、市民が主役のまちづくりという形もある。市民提案を受け入れる、皆さんの意見を反映しながら進めていくというイメージも書かれているので、そこをもっと前面に打ち出していけば、表現がしやすくなるかなと思った。

もう一つ。今回関連プロジェクトとしてまとめているのは、プロジェクトを縦割りではなく、プロジェクトチーム的に組織横断的にやっていくことにつながっていくような表記になっているかと思う。そういうものがうまく展開できるのかなと思った。委員の皆さん持ち帰って読んでいただいて、先ほどの意見のように、こういう項目が少し足りないとか、こういう項目があった方が良いのではないかというところについては、事務局に出していただくとより充実していくと感じた。そういう視点で読んでいただき、足りない部分を皆さんの今までの経験の中から補っていただきたいと思う。一応こういう内容で市民公募にかけていくということで、皆さんの了解をいただけたと思う。

(3) 今後のスケジュール及び審議会日程について

(事務局)

本日配布の第2次伊予市総合計画（後期計画）策定スケジュールで説明する。この見方は前回と同様、それぞれの過程において、実施済を灰色、今後の予定を赤色としている。

本日1月12日、第3回の策定審議会を開催している。大きく変更があった点について報告する。まず、基本計画の庁内調整は当初1月6日までとしていたが、明日（1月13日）までとしている。また、前回、3月の定例市議会に諮る予定とし、それまでに市民の意見を聞きつつ、議会上程に合わせた日程で進めるとしていたが、先般の内部協議で、今回の基本計画策定が議決を条件とした決まりがないこと、また周辺市町の策定過程も踏まえ、今回は議会への上程ではなく、議員全員協議会などの場において報告するに留めるという変更となった。

市民意見公募については、広報でも既に案内しており、日程どおり今月15日から2月3日までの20日間で実施する。この市民意見公募は、市長が意見を求めるという例が多いのだが、現在本審議会が進行中であり、答申段階ではないことから、形式的には、市の諮問機関である本審議会が策定計画に対して意見を求めるということで進めさせていただきたいと思う。

したがって、次の審議会は2月5日に予定しているのだが、こちらについては、まず市民意見公募期間中に委員の皆さまからも今回提示できなかった基本計画を含め、ご意見を頂きたいと考えている。それから市民意見公募で市民に意見を頂く、また計画の全体像について、先ほどの意見も含め庁内で改めて確認をする。それぞれの意見や変更点を整理した形で、次回の審議会にて報告し、そこで調整を加えた上で審議会から市長へ答申という形で進めさせていただければと思う。次回の審議会で調整が必要な内容があれば、事後調整した形で答申案としたい。答申の内容を基に、市の総合計画後期基本計画を定める手順としたいと思う。もうしばらく慌ただしい過程が続くのだが、引き続きご協力をお願いしたい。

(会長)

事務局から前回スケジュールからの変更点、また今後の策定スケジュールにつ

いて説明があった。本審議会は、次回2月5日（金）、時間は午後1時半で決めさせていただきます。その場で、我々がここで出した意見、それから市民の意見、また行政の意見を踏まえた最終チェックをし、市長に答申する内容を決めていくのが次回の役割になると思う。特に意見がなければ、そういうスケジュールで進めさせていただければと思う。

(4) その他

(事務局)

年明けからばたばたとして申し訳ないが、あと1か月お願いしたい。先ほどスケジュールで申したとおり、今回準備できなかった基本計画部分は、全体的な内容が揃った時点で、次回の審議会までの期間に意見を頂ければと考えている。資料が整えば改めて依頼申し上げる。できる範囲で結構なので、ご協力いただければと思う。

(会長)

書面でという形になるかなと思う。先ほどの関連プロジェクトが埋まった状況でということよろしいか。ではそういう形をお願いします。

以上で今回の審議会は終了する。持ち帰っていただき、ご意見があれば事務局に遠慮なく申し付けていただいたらと思う。

(事務局)

以上をもって、第3回総合計画策定審議会の全ての予定を終了した。これにて閉会とする。